

2018年度

事業報告

特定非営利活動法人 就労ネットうじ

ゆめハウス

(就労継続支援A型・B型)

2018年度事業報告と2019年度にむけて

2018年度は認可を受けて2年目のスタートとなります。

大切にすることとしては、一人ひとりの働きを社会の中に具体化する実践として「多様な働き方を目指す」と位置づけました。

現在、他団体、企業等の連携事業は種目としては21種の事業になりました。さらに細分化したらその何倍もの団体と連携している事になります。中には積み上げてはみたが具体化しなかった事業も多々ありますが、これこそ事業を動かそうとする現場の判断が私たちの目指す多様な働き方につながる実践と言えます。

また利用者の自治活動においては、正式に「ゆめ会議」として動き出しました。

就労継続支援A型事業は、「多様な働き方と最低賃金の確保」を目指し展開してきました。特別清掃では新たな場所もつながり、合わせて作業効率を上げながら利用者一人ひとりが「誇り」をもてる働き方づくりを進めてきました。

後半からは新たな施設外就労支援の仕組みと体制づくりを進め、2019年度より具体的な動きに入る予定です。また多機能を活かしたB型利用者の実習受け入れについても継続した受け入れを進めながら効果を上げています。

就労継続支援B型事業では、個別性とニーズを捉えながら、テーマを「一人ひとりの多様な働き方と工賃向上を目指します」としました。施設外支援・就労への新たな開拓と実践を積み上げながら、ハローワークとの連携や企業見学、また必要に応じて他事業所の見学や体験等の動きも取りました。

啓発においては、継続して取り組みを進めている企業からの新人社員ボランティア研修が効果を上げています。今後とも異業種との接点を持つ仕組みづくりを進めていきたいと思えます。

2019年度へつなぐ事として、まずは「ともにある」の理念のもと計画の検証と確認を進め、多様な働き方を目指す事、またその事業展開に合わせて支援体制の強化を進めいきます。

2018年度は中央省庁での水増し雇用をはじめ、強制不妊手術などまさに人権侵害につながる事態が起きています。また変化する歪んだ制度設計に対しても、情勢を捉えながら、動きをとりたいと思えます。

「地域共生社会」の理念としては否定するものではありません。ただ所得保障をはじめ、現在の仕組みの中では「共生社会づくり」の実現には見通しが持てません。

このような情勢の中だからこそ、引き続き「ともにある」の理念のもと、地域社会の中で実践を進めていく事を大切にします。

備考 ・見学者数 46組 / 内 利用見学 10人
・体験者数 7人 / 延べ 26日間

(2019.3.31現在)

くりーんねっと（就労継続支援A型）

（全体）

日々の作業内容、作業姿勢にいたるまで質の向上を図り、安定したリズムで作業に取り組む事ができました。

日々の積み重ねにより、身につけた技術をもとに清掃の日常的なスキルアップを目的とした取り組みとして、昨年度より進めている土曜日の清掃業務を単独（1名）で施設外支援という形が定着してきました。

利用者がチーム、集団としての意識を高めるため利用者同士の意見等の話し合いの場を定期的に設け、多様な働き方を軸に置き、チーム作りや働く姿勢等個人のスキルアップとチームワークの向上、積極性や自主性、意欲的な働きを身につけるように心がけました。

また、新たな企業との連携を進めている中、利用者1名が地域の企業内業務に繋がる予定が、最終的な折り合いがつかず、やむなく白紙になった事は、事業所としても利用者本人にとっても社会を経験するという意味での勉強になりました。このような経験も活かし、次なる新規業務へ繋げられるようステップアップを図っていきます。

また、週20時間以上の勤務を維持し、雇用者としての自覚を持って日々の業務に取り組むことを目指し、個別支援計画をもとに進めています。

また今後の課題として、最低賃金の増加に伴った賃金支払いのバランスの確保が挙げられます。変動していく最低賃金の額に適応した賃金支払いに近づけていく事とあわせ、個別支援計画やモニタリングにおける本人との相談を通し、「多様な働き方」を目指していきます。

（利用者）

A型利用者数 7名（2019.3.31 現在）

B型実習生1名受け入れ。

B型実習生1名 A型雇用。

特別清掃時、専門機器を扱う利用者の増加。

基本通所時間 10時～16時

労働時間 週20時間以上30時間未満

通所人数 1日 4～5名

（作業場所）

- ・産業振興センター 全館清掃（日常清掃・特別清掃）
- ・塔の島トイレ清掃
- ・東宇治地域福祉センター（日常清掃・特別清掃）
- ・円蔵院
- ・サクラハイツ
- ・宇治田原ソレイユハイツ（2棟）
- ・ライオンズマンション宇治第2（日常清掃・特別清掃）
- ・伊勢田地区公園除草作業（5ヶ所）
- ・小倉明星園デイサービスセンター（日常清掃・特別清掃）
- ・大山医院（日常清掃・特別清掃）
- ・その他 特別清掃依頼に対応（年間1～2回）

ゆめハウス（就労継続支援 B 型）

（全体）

多様な作業種目や日々の活動の中で、それぞれの個別性とニーズを捉えながら、環境を整えてきました。

就労への意識の高まり、また個々の必要性に応じて企業や他資源との連携も進み、体験や見学を重ねていくことで地域の中での接点が増え、相互作用ができました。

自治組織として「ゆめ会議」が立ち上がり、具体的に自ら決定できる仕組み作りの第一歩を踏み出しました。それぞれの持つ「働く」ことの意味を大事にしながら引き続き、多様な働き方の考えを軸に個々に適した環境を提供できるように、他資源も含め連携と整備を進めていくことが求められます。

（利用者）

B型利用者数 25名（2019.3.31 現在）

A型実習体験数 1名

A型雇用契約者 1名

施設外支援 4名

基本通所時間 10時～16時

通所人数 1日 5～18名

（作業内容）

- ゆめカフェ（毎週金曜日）
- 工房
- 出張喫茶（物品販売）＊出店販売年間 175回
- 清掃 7ヶ所
（宇治市社会福祉会館 お風呂掃除・服部医院・森田ビル・宇治市役所除草・こせい舎・米坂墓地）
- リサイクル（回収・販売）
- 下請け
- 製菓
- 啓発（企業新人研修受け入れ・講演）
- 企業実習

ゆめカフェ（毎週金曜日 11:30～14:00）

- 一回につきおよそ35食程度の食数が出ます。
（1食500円・ドリンク付き600円）
- 2012年からはじめ7年目になります。
- 城陽支援学校より実習生受け入れ（4名）
- ゆめカフェランチを弁当として配達することについてのやり取りで、意思疎通がうまくいかない部分があった。

評価

長年にわたり、ゆめカフェを担当されていた職員が2018年度を持って退職されました。元シェフという力を生かしてお客様にランチを提供し、喜んでいただいた功績は大きかったと思われます。

利用者にも食後のコーヒーを入れる担当に入るようになり、お客様に喜んでもらえることにやりがいを感じ、ゆめカフェ以外の出店でも自信を持ってコーヒーを提供できるようになりました。

また施設外のカフェ実習を行っている利用者の練習の場となり、多様な働きの間としての強みを活用することができています。

次年度に向けて、厨房を使用するにあたって、衛生面を強化していく方向で、作業場の清掃の担当を決め、毎日実施するようになりました。厨房に入る利用者、職員全ての方にユニフォームの着用を義務付け、作業を行うように徹底しました。

また、定期的に（月1回）厨房会議を開き、ゆめカフェのメニュー決めや問題点の改善に努めました。

出張喫茶(一部物販含む)

- ・ レモンカフェ(認知症カフェ) 年間8回 出店
- ・ 心身障害者福祉センター(京都府社会福祉事業団)
定例出店 毎月最終火曜日 年間12回 出店
あしはらフェスタ 年1回(利用者さんと保護者の方のお祭りのようなもの)
- ・ 介護教室(宇治市小倉明星園)
第1・2・4木曜日 年間32回
- ・ 宇治市生涯学習センター販売
毎週 水曜日・土曜日 年間92回(イベント含む)
- ・ 宇治市市役所・京都府振興局販売・オープンカフェ 31回
- ・ 育成学級手作り(マドレーヌ) 9月~2月

評価

今年度は、2年間続いた育成のマドレーヌ作りが終了しました。

十分気をつけていたものの、年に2回マドレーヌに繊維や髪の毛のようなものが付着してしまい、小学校へ謝罪と返金に伺いました。また、年度末に事業所間での振り返りがあり、コストや配達、つながりなどの面から今後続けていく難しさを伝えました。

心身障害者福祉センターへの出張喫茶では、現地利用者の喜びにつながる効果もあり、年々浸透してきています。来年度へ向けまた、価格交渉も行い、単価250円を400円にさせて頂くことになりました。また、月ごとのお菓子を考えたり、見せ方にも工夫したりと利用者の作業意欲アップにもつながりました。

また、城陽にあるデイサービスセンターの「ひだまりカフェ」(認知症の方やその保護者の方の集い)にプレ参加し、お菓子とドリンクを提供させて頂きました。利用者の方も大変喜んで下さり、月に1度水曜日に開催予定となっておりますが、相手事業所の都合上、やむ得なく取り止めとなりました。

また、その他としては、一年間を通して、個人様や、他の事業所からも製菓の注文を頂きました。

今後に向けてとして、ユニフォーム、帽子、エプロンを事業所で一括購入し、ご本人で管理することにより意識向上と、衛生面に留意できるようにしていきます。また2020年の食品表示法の改正に伴う表示内容変更に対応できるよう検討をすすめていきます。

工房（自主製品）

・さをり織り製品

ショール（京都府敬老お祝品） 40枚

染和紙織（念珠入れ・通帳入れ・名刺入れ・ティッシュケース・コースター）

コースター 京都府より啓発物品として 500枚

スポーツ大会参加賞として 100枚（和紙ティッシュケース）

山科区役所啓発物品 300枚

ぶらり嵐山へ納品 200枚

・刺し子製品

ふきん・ハンカチ・チャチャ王国のおうじちま入りトートバッグ 他

刺し子ふきん 宇治市中山東町内会より 113枚

刺し子ハンカチ(小) 朱雀ロータリークラブより 50枚

・箱編み製品

帽子・ネックウォーマー・マフラー・レッグウォーマー

・手編み

・メガネケース

・エコバック

・ソックモンキー&ソックラビット

・NaNairo ストラップ

・アクリルたわし・エコモップ

・シュシュ

・ブックマークセット

京都府 人権強調月間 啓発物品 2,700個

・うじはんどめいどショップでの売上げ金額 23,550円

評価

今年度は、初めての試みでぶらり嵐山へ納品し、販売場所を少しずつですが
広げるきっかけを作ることができました。

また、エコボール事業と連携し、朱雀ロータリークラブ様(糸を寄付して下さっている団体)の講演
記念品として、エコボールをあしらった刺し子の作成を実施し、納品致しました。

今後も引き続き、他の部門と連携し、工房部門の新規の物作りの考案も積極的にしていきたいと思
います。